

**KAMITONDA
TOWN**

概要版



第5次上富田町総合計画

後期基本計画及び第3期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

和歌山県上富田町

KAMITONDA TOWN

2026

令和8年3月



1 計画策定にあたって



(1) 計画策定の趣旨

本町では、令和3(2021)年度を初年度とする第5次上富田町総合計画を策定し、この計画に定めた目指すべき将来像「『花咲く明日につながる口熊野かみとんだ』～自立、挑戦、協働のまちづくり～」を実現するため、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までを計画期間として目標を定め、各目標の実現に向けた施策を体系的に定めた基本計画（前期）に基づき各種施策を展開してきました。

本計画においては、前期期間終了年度に見直し、次期計画を策定することとしております。

前期期間中には、社会情勢として様々な動きがあり、本町においても計画策定当時より状況が異なる部分も生じていることから、それらの変化や前期基本計画での成果や課題を踏まえ、本町が進むべき方向を改めて示すため、令和8(2026)年度から令和12(2030)年度を計画期間とする「後期基本計画」を策定します。

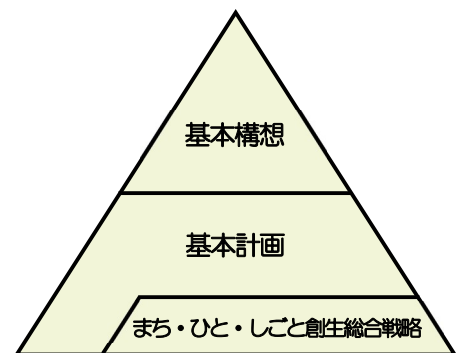
今回の後期基本計画では、人口減少、大規模圏の一極集中、少子高齢化といった課題に対応すべく重点的に取り組んでまいりました「第2期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間終了に伴い、これまでの成果や課題を整理したうえで、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略や地方創生2.0の方向性を踏まえ、「第3期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包し、一体化する形で策定します。



(2) 計画の位置付け、構成、期間

上富田町総合計画は、基本構想、基本計画で構成します。

基本構想は、これからの社会潮流、本町の現状・課題を踏まえ、まちづくりの将来像及び目標を定めたものです。基本構想の各目標の実現に向けた施策を体系的に定めたものが基本計画です。前期計画（令和3(2021)年度から令和7(2025)年度まで）と後期計画（令和8(2026)年度から令和12(2030)年度まで）の各5年間としています。



○基本構想は、構想期間終了年度に見直し、次期計画を策定します。

○基本計画は、前期期間終了年度に見直し、後期基本計画を策定します。

※基本計画（後期）に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包し、一体化する形で策定します。

2

基本理念と将来像

(1) 基本理念

『明るく豊かで元気なひとづくり、まちづくり』

～知恵と創造の力を合わせる協働のまちづくり～

基本理念は上富田町のまちづくりの基本的な考え方を示すものです。

住民が健やかで安心して暮らせるように、住民と行政が一体となって人もまちも元気になる協働と活力のあるまちづくりを目指します。

本町は温暖な気候や美しい緑、町の中央を流れる富田川など、風光明媚な自然に恵まれ、明るく豊かなまちづくりが進んできました。それは先人たちの限りない努力の賜で、今日の繁栄があります。

先人の知恵を基盤に私たち自身の力で新しい未来を創造していく、『明るく豊かで元気なひとづくり、まちづくり』～知恵と創造の力を合わせる協働のまちづくり～に取り組みます。

(2) 将来像

『花咲く明日につながる^{くちくまの}口熊野 かみとんだ』

～自立、挑戦、協働のまちづくり～

世界が持続可能な社会を目指して大きく変わろうとしている今日、本町においては恵まれた豊かな自然、先人の知恵、これまでの学びを大切にしながら、新しいまちづくりのステージに挑戦していくことが求められています。

住民一人ひとりの開拓精神とこれまで培ってきた力を結集し、Society（ソサエティ）5.0の活用（実装化）やSDGsの達成に向けた新しい時代を先取りする政策を住民と行政が協働して進め、心豊かに安心して快適に暮らせるまちづくり、未来を託す子どもたちが輝くまちづくりを目指します。

また、広域連携を進める圏域の要として存在感を発揮していきます。

※「花咲く」：第4次総合計画の「花ひらく」とは、花がひとつずつ開くという過程を表していました。第5次総合計画の「花咲く」では、満開の花が咲くという意味合いを持たせ、第4次総合計画からさらに発展させていくことを意図しています。

※「口熊野」：当地域は熊野古道中辺路街道の入り口として、いにしえより「口熊野」という名で栄えてきました。

3 将来人口目標

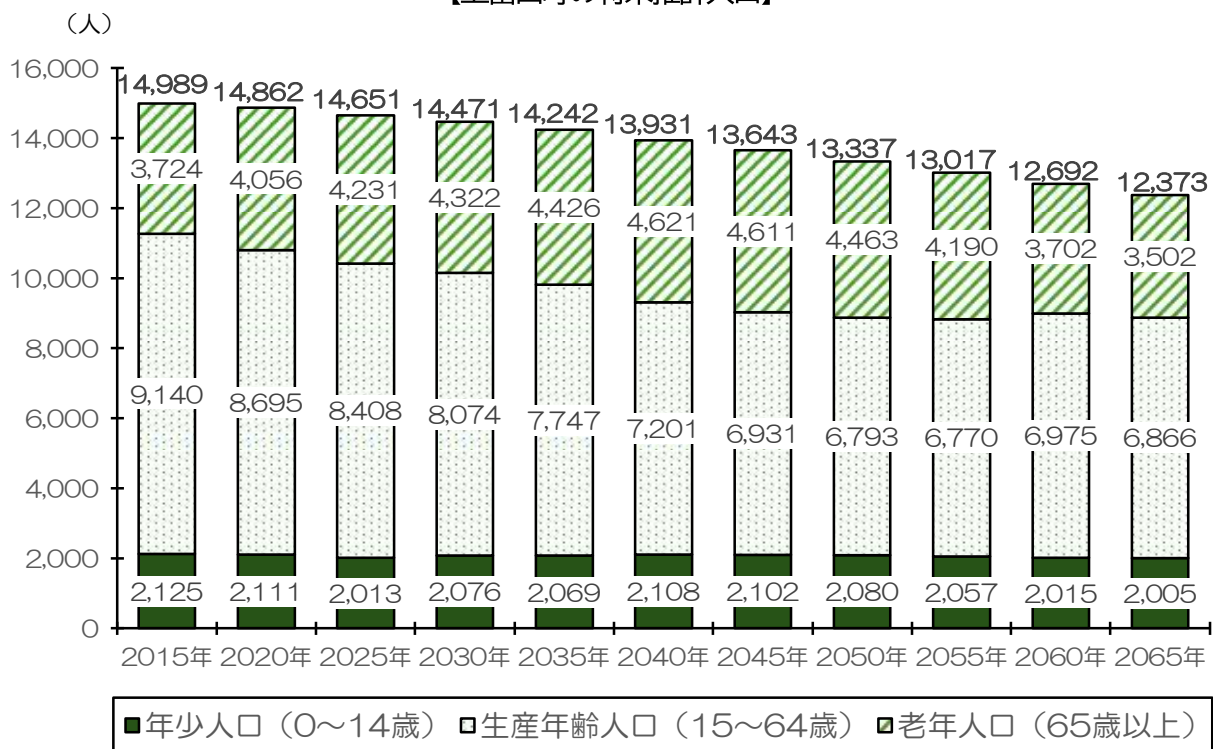
わが国は少子化の影響によって人口減少社会に転じています。本町の将来人口も現在の増加基調から横ばいになり、やがて減少に転じる見通しです。

このような状況から、本町を取り巻く社会潮流に適切に対応しながら、住みやすさを実感する定住環境の構築、産業振興による雇用機会の創出、未来の子どもたちが輝くまちづくりを展開し、人口減少を抑えられるよう最大限の努力をします。

10年のまちづくりの成果として、計画最終年度である令和12（2030）年の人口目標を次のように設定します。

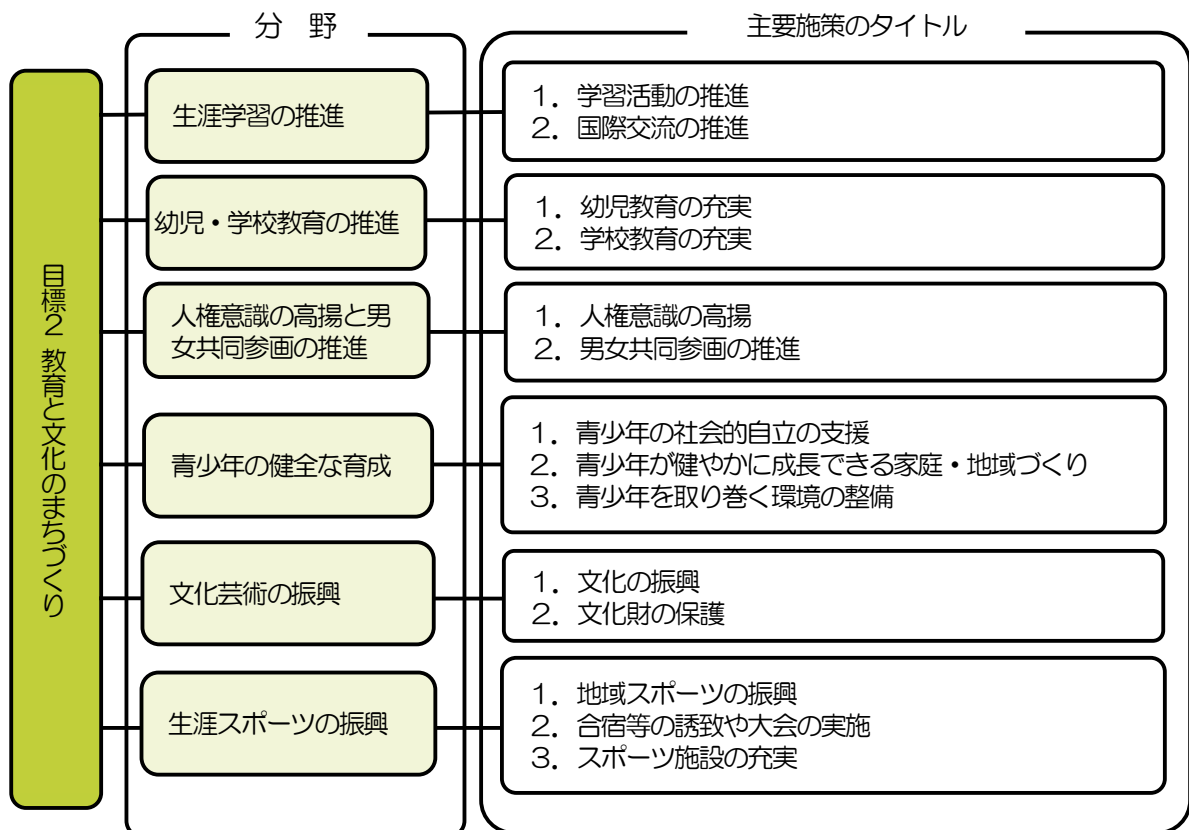
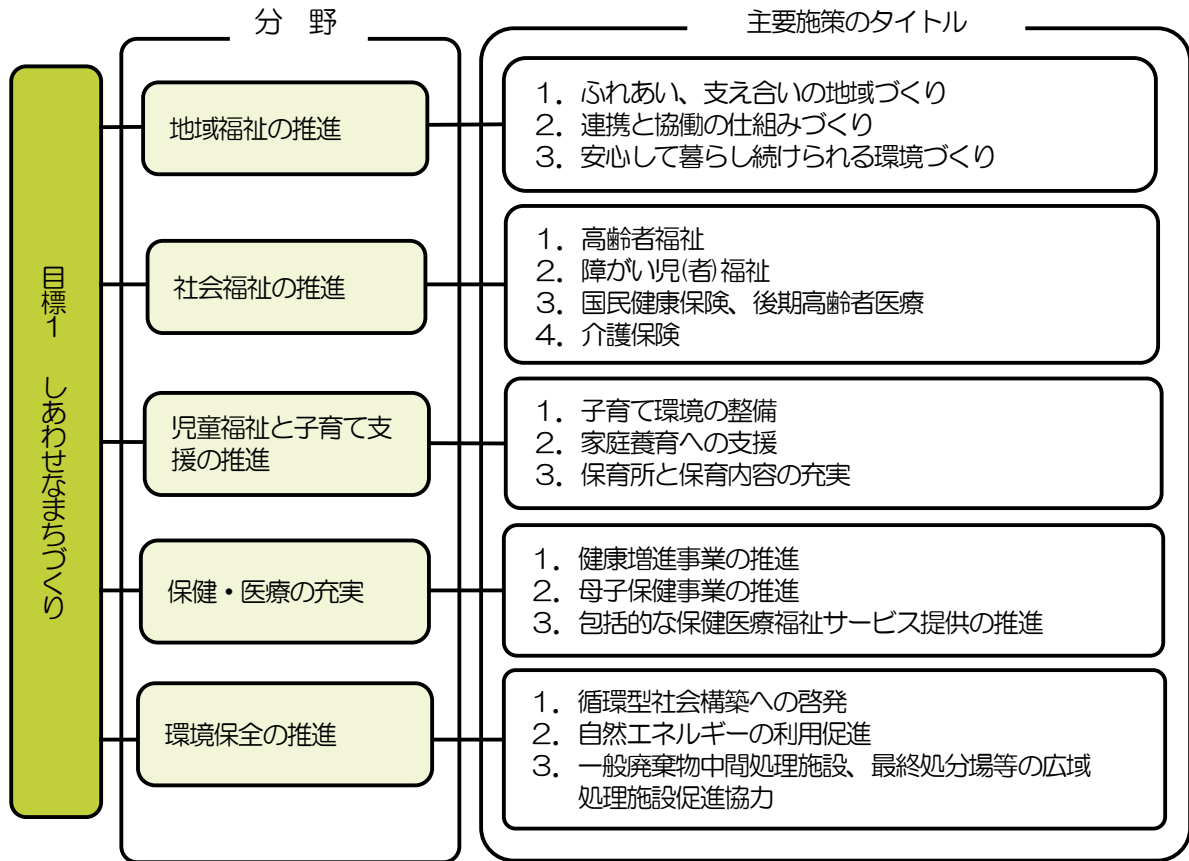
令和12（2030）年 将来人口 14,500人

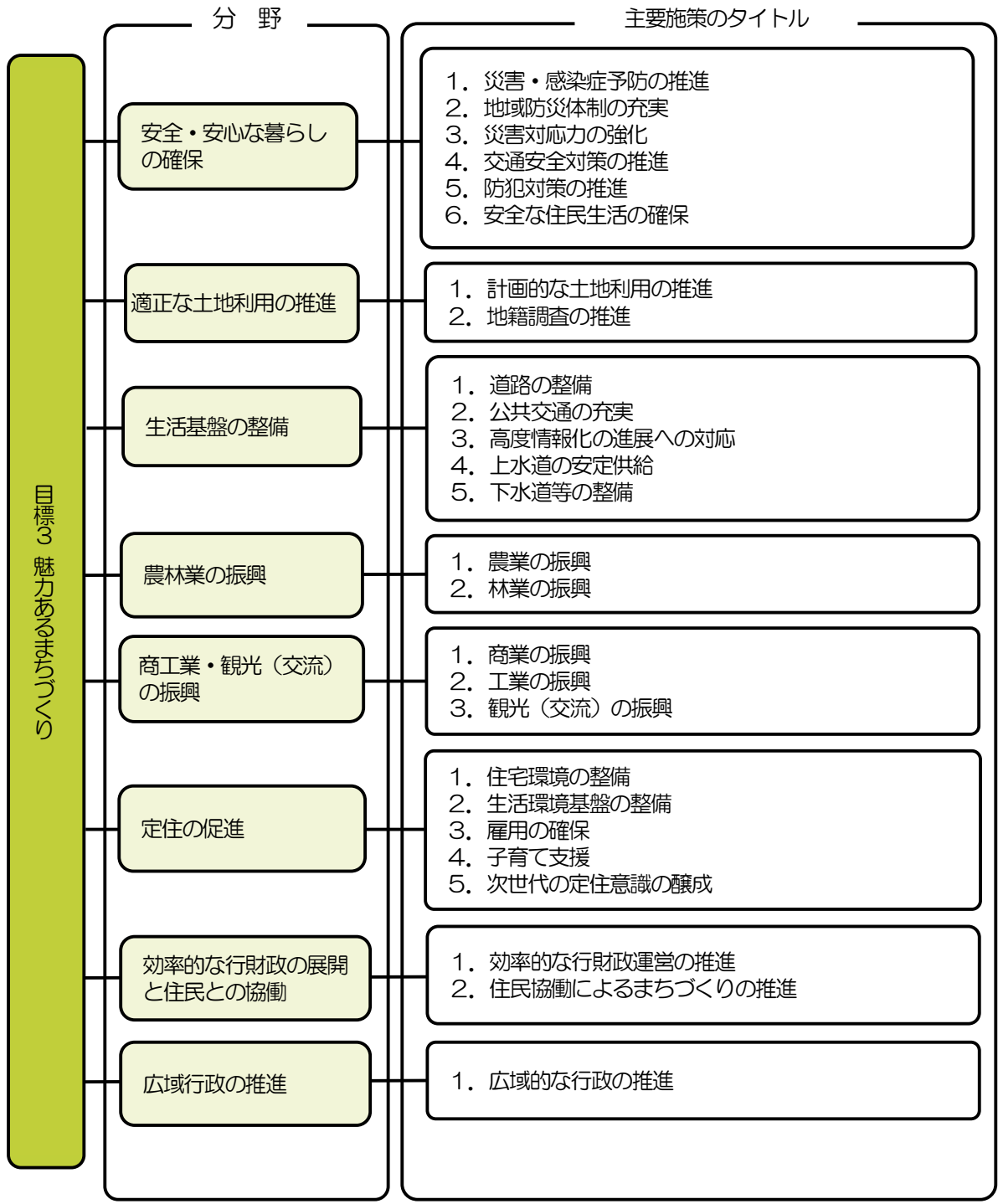
【上富田町の将来推計人口】



資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」をもとに町独自に推計

4 計画体系





5 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略

国においては、平成26（2014）年に人口の減少の歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、地域社会を担う個性豊で多様な人材の確保及び地域における魅力ある就業の機会の創出を一体的に推進する「まち・ひと・しごと創生」の法律を制定しました。

その後、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の交流が制限され、世界各地をはじめ地域社会に大きな影響を与える一方で、働き方改革等、デジタル技術の活用により、時間・場所にとらわれない働き方が見直され、地方における課題解決の一つとして期待されるテレワークの普及や若年層の地方移住への関心が高まるなど社会情勢は大きく変化しています。

こうしたことから、国は、地域の個性を生かしながら、デジタル技術の活用によって地方創生の取組を加速化・深化させていくため、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」を掲げました。

近年では、令和7（2025）年6月に今後10年間を見据え、地域の主体者が産業振興策などを通じて人口減少を抑止し、持続可能な社会の形成を目指す政策や取り組み「地方創生2.0」の方向性を提示する「地方創生2.0基本構想」が閣議決定されました。

本町においても、第1期、第2期とまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し取り組んでいます。この総合戦略では、5つの基本目標を掲げ、基本的方向を示し、19の施策と毎年度ごとの目標値を設定しスピード感をもって取組を進めてきました。

人口減少問題は、長期的にわたり取り組まなければならないことから、次の世代が暮らしやすい社会となるよう、第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略と位置づけて新たな目標設定を行い取り組んでいきます。

(2) 総合計画と総合戦略の一体化策定

総合計画はこれからの町政において、まちづくりの今後の方向性を定める最上位の計画であり、後期の計画を策定するにあたり、人口減少の克服は重点的・優先的に取り組む必要があることから、近々の課題として具体的に対策を行っていく総合戦略を総合計画の中に位置づけることで、政策の方向性と融合し、より一貫性のあるものとして示すことが可能となります。

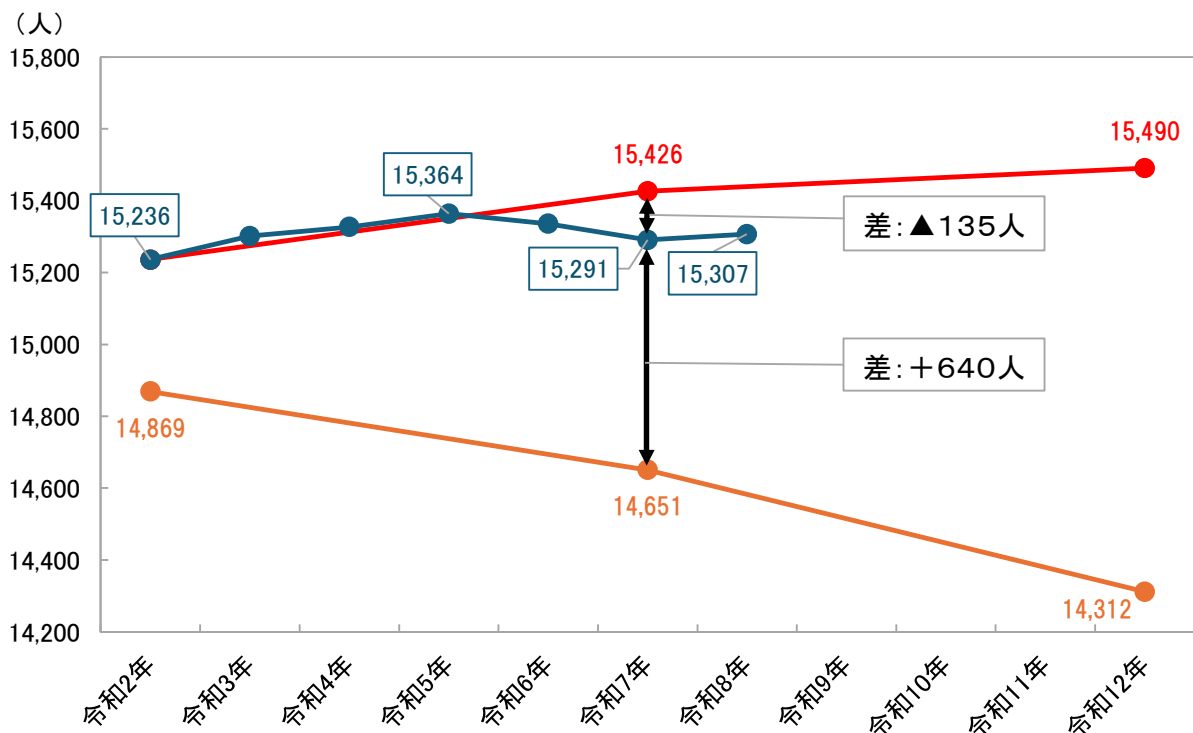
また、一体化については、国の方針（「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き（令和4年12月版）」）による、今後の計画に重要となる、デジタルの力を活用した地方創生という目的を明確にし、重要業績評価指標（KPI）を設定することで、総合戦略としての内容を備え、総合戦略と総合計画が一つのものとして策定できる条件にも合致することから、総合戦略を総合計画の重点施策の一つとして位置づけて策定します。

6 人口ビジョンと地域ビジョン

(1) 人口ビジョン

本町の人口推移を見ると、令和2年は15,236人でしたが、令和5年には15,364人まで増加しました。令和7年には15,291人に減少しましたが、直近の令和8年1月時点の人口は15,307人まで増加しています。この人口水準は、令和3年に策定した人口ビジョンに比べて、やや少なくなっていますが、国の機関（国立社会保障・人口問題研究所）による将来推計人口を大きく上回っています。

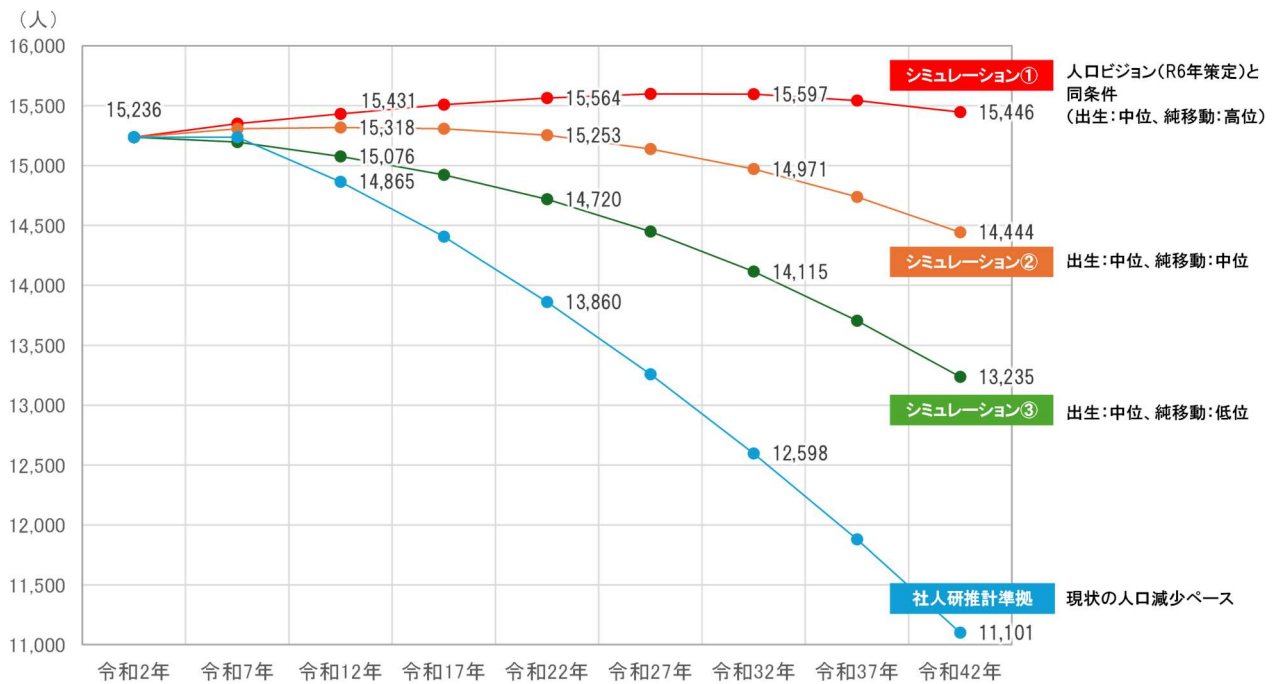
【人口ビジョンと実際の人口の乖離】



(注) 実際の人口は毎年10月1日時点。ただし、令和8年のみ1月1日時点の値。
(資料) 上富田町「上富田町人口ビジョン(令和6年改訂版)」、総務省「国勢調査」、和歌山県「和歌山県の推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口(令和5年推計)」

本町の合計特殊出生率は低水準にある一方で、純移動については、男性・女性の若年層を中心に転出超過数が少なくなり、20～40歳代では転入超過となっています。これらのことを踏まえ、3通りの将来人口シミュレーションを実施いたします。

【人口シミュレーション】



【シミュレーション条件】 (* 純移動率・・・(転入数 - 転出数) ÷ 人口

| | |
|-----------|---|
| シミュレーション① | 令和6年策定の「人口ビジョン」と同条件 出生率は中位（現実的）。純移動率は高水準から漸次下降 |
| シミュレーション② | 出生率は中位（現実的）。純移動率は中位水準から漸次下降 |
| シミュレーション③ | 出生率は中位（現実的）。純移動率は低水準から漸次下降 |

出生率・純移動率ともに中位（現実的）になると設定したシミュレーション②を見ると、本町の人口は令和12年までは増加が続くものの、それ以降は減少に転じることが見込まれます。このような将来見通しを踏まえ、想定される人口減少を真正面から受け止め、第3期上富町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、効果的な人口減少対策を企画・実行することで、人口の減少スピードを抑制し、いつまでも活気のある「自立、挑戦、協働のまちづくり」を目指していく必要があります。

(2) 地域ビジョン

総合戦略では、上位計画である「第5次上富田町総合計画」が定める「まちの将来像」を、地域の「ありたい姿」を示した「地域ビジョン」とします。

地域ビジョン

花咲く明日につながる口熊野 かみとんだ ~自立、挑戦、協働のまちづくり~

(3) 基本目標、基本的方向と施策

| 基本目標 | 基本的方向 | 総合戦略施策 |
|--|------------------------|---|
| 1 働く場のある かみとんだ ◆安定した雇用の創出 | 1.農林業振興を推進し担い手を増やす | (1) 担い手の確保と育成 (2) 森林資源の適正管理と有効活用 |
| | 2.商工業等を振興し雇用を増やす | (3) 地場産業の振興 (4) 企業誘致 |
| 2 人が集まる かみとんだ ◆関係人口の創出と転入増加 | 3.関係人口を増やす | (5) スポーツによる観光振興 (6) 体験プログラムによる観光振興 |
| | 4.移住・定住を増やす | (7) 空き家の登録 |
| 3 もうひとりの笑顔も かみとんだ ◆出生率の向上 | 5.上富田の子どもをみんなで育てる | (8) 子育て支援の充実 (9) 子どもの居場所づくりの充実 |
| | 6.豊かな心・確かな学力・健やかな体を育む | (10) スポーツによる子どもの健全育成 (11) 学力・体力の向上 |
| 4 いつまでも 元気でいきいき かみとんだ ◆安心・安全な暮らしの確保 | 7.自分の健康を自分でつくる | (12) 運動する人を増やす (13) 健診率の向上 (14) スポーツによる健康増進と介護予防 |
| | 8.みんなで災害に強い町をつくる | (15) 防災・減災対策 (16) 橋梁・跨線橋・トンネル等の長寿命化 (17) 水道施設の耐震化 |
| 5 ずっと選ばれる かみとんだ ◆若者の都市部への流出を食い止める | 9.小学生・中学生・高校生に「愛郷心」を育む | (18) 地域資源を活用した愛郷心の醸成 (19) 熊野高校との連携 |
| | 10.Uターンを促進する | (20) 若年世代還流と定着促進 |
| 6 デジタル活用で 未来につながる かみとんだ ◆デジタル活用の推進 | 11. 多様な分野におけるデジタル活用の推進 | (21) デジタル活用の推進 |

7 総合戦略の数値目標

総合戦略では、各目標の達成度合いを測るための数値目標を以下のとおり設定します。これらの進捗・達成状況について点検・評価を行い、施策のPDCAサイクルを推進します。

💡 基本目標① 働く場のある かみとんだ ～安定した雇用の創出～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|--------|--------|---------|
| | (R4年度) | (R12年度) |
| 本町総生産額 | 521億円 | 570億円 |

* 出典：『和歌山県市町村民経済計算』経済活動別市町村内総生産(実数)

💡 基本目標② 人が集まる かみとんだ ～関係人口の創出と転入増加～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|--------|----------|----------|
| | (R6年度) | (R12年度) |
| 観光入込客数 | 262,159人 | 300,000人 |

* 出典：『和歌山県観光動態調査報告書』

💡 基本目標③ もうひとりの笑顔も かみとんだ ～出生率の向上～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|---------|--------------|-------------|
| | (H30～R4年度平均) | (R5～R9年度平均) |
| 合計特殊出生率 | 1.58 | 1.80 |

* 出典：厚生労働省『人口動態保健所・市区町村別統計(人口動態統計特殊報告)』

💡 基本目標④ いつまでも元気でいきいき かみとんだ ～安心・安全な暮らしの確保～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|-------------------------|-----------|---------|
| | (令和7年12月) | (R12年度) |
| 要介護2以上の認定者割合 (65歳以上) | 11.2% | 11.1% |

* 出典：町内統計

💡 基本目標⑤ ずっと選ばれる かみとんだ ～若者の都市部への流出を食い止める～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|--------------|------------|---------|
| | (令和7年12月末) | (R12年度) |
| 若者(23歳)人口維持率 | 115.4% | 118.0% |

* 23歳になった上富田町出身者を分母とし、5年後に28歳になった町内居住者分子として算出した割合

💡 基本目標⑥ デジタル活用で未来につながる かみとんだ ～デジタル活用の推進～

| 指標 | 基準値 | 目標値 |
|-----------------------------|--------|---------|
| | (R7年度) | (R12年度) |
| 行政サービスのデジタル化が進んでいると考える住民の割合 | 22.2% | 50.0% |

* 出典：住民アンケート調査結果

8 総合戦略の推進体制

(1) PDCA サイクルの導入

まち・ひと・しごと創生を実現するためには、まず、効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに、設定した数値目標等を基に、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のプロセスを実行していきます。

PDCA サイクルとは、PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことをいいます。上富田町において人口減少と地域課題に基づく適切な短期・中期の政策目標を設定し、「第3期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗を検証し、改善していく PDCA サイクルを確立することが重要です。必要に応じて、「第3期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂（バージョンアップ）も行います。

(2) 施策の進捗管理体制と外部有識者の参画

「第3期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施にあたっては、自治体だけに限らず、住民代表に加え、各機関（産・官・学・金・労・言）が連携し効果的な施策が実施されるよう、それぞれの代表も加わった形で、PDCA サイクルに基づく効果検証を行います。

そのために、各機関（産・官・学・金・労・言）に加え、住民代表からなる上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を設置しています。

(3) 進捗状況の点検

産業や人口、社会インフラ等の現状や将来の動向に関し必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなど特性に即した地域課題等を踏まえ「第3期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策のPDCA サイクルを確立します。

○評価主体 「上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」と「上富田町まち・ひと・しごと創生本部」

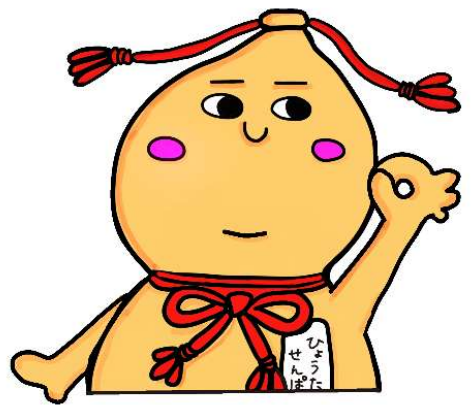
○評価対象 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策と各事業の進捗状況について

○評価する時期 毎年6～8月頃

(4) 地域間の連携推進

国は、地方公共団体間の広域連携に関し、重複する都市圏概念を統一し、経済成長のけん引などの機能を有する「連携中枢都市圏」の形成を促進し、財政面やデータ分析面での支援等を行っています。併せて、従来からの定住自立圏の形成を進め、地域連携による経済・生活圏の形成を推進しています。

本町においても、こうした地域連携施策を活用しつつ、地域間の広域連携を積極的に進めることとし、「第3期 上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に順次反映させていきます。





第5次 上富田町総合計画後期基本計画及び第3期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略
【概要版】

発行 令和8年3月 編集 上富田町
〒649-2192 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来763番地
電話(代表) 0739-47-0550 FAX 0739-47-4005